

KYOUSEI DAYORI

-きょうせいだより-

コウセイテントウ



福岡矯正管区
再犯防止推進
イメージキャラクター

第20号

令和4年8月

再犯防止 犯罪に
戻らない戻さない
立ち直りを支える地域の力

CONTENTS

- ・ 麓刑務所 七夕飾り
- ・ 佐賀少年刑務所 農福意見交換会
- ・ 会議の開催状況
- ・ 全国刑務所作業製品審査会
- ・ 再犯防止啓発月間
- ・ 地方再犯防止推進計画策定状況
- ・ ジャパンマック福岡 訪問

矯正を知ろう！再犯防止をもっと身近に！

きょうせいだよりってなに？

本誌は、地方公共団体や民間団体の皆さまに、法務省の再犯防止の取組や矯正施設のことなどを知ってもらいたいという思いを込めて配信するお便りです。日々の業務の合間に手に取ってご覧いただき、私たち矯正のことを少しでも身近な存在として感じていただけますと幸いです。

七夕飾り@佐賀県庁県民ホール



※1 第72回“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～の一環として、令和4年6月24日（金）から7月1日（金）まで、佐賀県庁県民ホールにおいて、保護司会等の活動状況を紹介するパネル展が行われ、その一角に、麓刑務所の受刑者が作成した七夕飾りを展示していただきました。短冊には、家族の健康を祈るものや、子どもへの思いなどが書かれていました。

彼女たちが再び社会で生活していくには、彼女たちの努力はもちろんのこと、**生きづらさや困り事を抱える彼女たちを支える地域の力**も必要です。

※1 “社会を明るくする運動”

すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。



犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第72回 社会を明るくする運動

第72回社会を明るくする運動 啓発ポスター

麓刑務所

九州唯一の女子刑務所です

麓刑務所は、昭和六十年から地域の指導者に伝統工芸品である佐賀錦の指導を受けており、平成三十年にはその佐賀錦が鳥栖市のふるさと納税の返礼品に採用されるなど、長年地域とのつながりを持ち続けています。

今回、そんな麓刑務所の受刑者が作った七夕飾りを地域で飾ってもらえる機会がありましたので、ご紹介させていただきます。

麓刑務所の佐賀錦について特集した広報誌が福岡矯正管区のホームページに掲載されています！



福岡矯正管区フロントページ

検索

刑務所作業製品 展示即売会@日田バスターミナル

令和4年6月25日（土）と同月26日（日）の2日間、日田バス株式会社様のご協力を得て、日田バスターミナルにおいて刑務所作業製品展示即売会を開催いたしました。

即売会の会場にも麓刑務所の受刑者が作成した七夕飾りを掲示していただきました。



佐賀少年刑務所農福連携意見交換会

農福連携×立ち直り支援!



農福連携は、農業の発展と障がい者の方々の活躍を両輪で進めていく取組として注目を浴びていますが、「福」の対象を障がい者の方々だけではなく、高齢者、非行や犯罪をした者などにも広げていく指針が「農福連携等推進ビジョン」（令和元年6月）で示され、我々法務省も農福連携に着目しております。今年度は、法務省側、農福側が双方の理解を深めるため、福岡管内（九州・沖縄地方）のほぼ全ての刑務所において、農福連携団体や関係機関等をご招待した農福連携意見交換会を実施する予定です。令和4年7月28日（木）に今年度初となる農福連携意見交換会が**佐賀少年刑務所**において行われました。

「出所者受入れにおいては、日中活動とそれ以外の日常生活の両立支援が大切であると感じている。また、農業に興味のない方は続かないだろう（スローライフ）。」、「出所者受入れ実績のない事業所はどのように対処をすればよいか分からないところが多いと思う（佐賀定着）。」などのご意見のほか、「マッチングしようとしている福祉事業所に出所者がいることを農業者に伝えるのか（佐賀県）。」との質問に対し、佐賀少年刑務所から他施設の成功事例の紹介のほか、刑務所職員も含めた理解促進の努力が重要との意見が出るなど活発な質疑応答も行われました。その後は、九州・沖縄地方唯一の総合職業訓練施設でもある佐賀少年刑務所内を見学した後、佐賀西部コロニー多良岳福祉園の管理者中尾様から受刑者に向けた講演が行われました。



「農業をすることは、多くの人に喜ばれ、誰かを幸せにする。皆さんも農業を将来の一つの選択肢にしてみてもどうか。障害のある方々を支えるのが私たちの仕事であり、皆さんの社会復帰を精一杯支援していきたい。皆さんが立ち直りを果たした先輩として、今後出所する方たちの模範に、そしてパイオニアになってほしいと思う。」とお言葉があり、受刑者は真剣に耳を傾けていました。



佐賀少年刑務所庁舎
(佐賀県佐賀市)

参加団体

社会福祉法人佐賀西部コロニー

NPO法人 スローライフ

佐賀県障害福祉課就労支援室

佐賀県農業経営課

佐賀県地域生活定着支援センター

福岡矯正管区



会議開催状況

矯正施設所在自治体会議 総会(全国)は 書面開催となりました。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年と同様に書面での開催となりました。

矯正施設所在自治体会議九州地域部会につきましては、開催の方法を検討中です。

※2 矯正施設所在自治体会議

矯正施設が所在する自治体の首長が構成員となってネットワークを形成し、積極的に地域における再犯防止施策等を推進することを目的として情報交換、調査研究を行うために設立された自治体主導の会議体です。

地方公共団体における再犯防止の取組を促進するための協議会（全国会議）

令和4年7月11日（月）、地方公共団体における再犯防止の取組を促進するための協議会（全国会議）がオンラインで開催されました。

平成30年度から令和2年度にかけて実施された**再犯防止推進モデル事業終了後の取組**について3つの自治体から発表があったほか、**都道府県と市町村の役割分担の整理等次期再犯防止推進計画策定に向けた意見交換**がなされました。

今後は、**全国を6ブロックに分けたブロック別協議会**が開催される予定です。

※3 地方公共団体における再犯防止の取組を促進するための協議会（全国会議）

地方公共団体による再犯防止施策において蓄積された成果や課題などについて、全国の地方公共団体での共有・理解の促進を目的として開催されます。

令和4年度 全国刑務所作業製品審査会

令和4年度全国刑務所作業製品審査会が開催され、木工、洋裁、金属、その他の各部門において、法務大臣賞など各種賞の受賞製品が決まりました。九州・沖縄地方の刑務所では、麓刑務所と長崎刑務所がそれぞれ事務次官賞を、福岡刑務所がヒット賞を受賞しました。



事務次官賞
コンパクトミラー (麓)



事務次官賞
テーブル付きコンロ丸 (長崎)



ヒット賞
クラフトペーパーグライダー (福岡)

再犯防止啓発月間

ご覧になりましたか!?

過去と向き合い、一歩ずつ



7月は「再犯防止啓発月間」です。



令和4年度
再犯防止啓発ポスター

平成28年に「再犯の防止等の推進に関する法律（再犯防止推進法）」が公布・施行されました。同法第6条には、国民の間に広く再犯の防止等についての関心と理解を深めるため、**7月を再犯防止啓発月間**とすることが定められています。

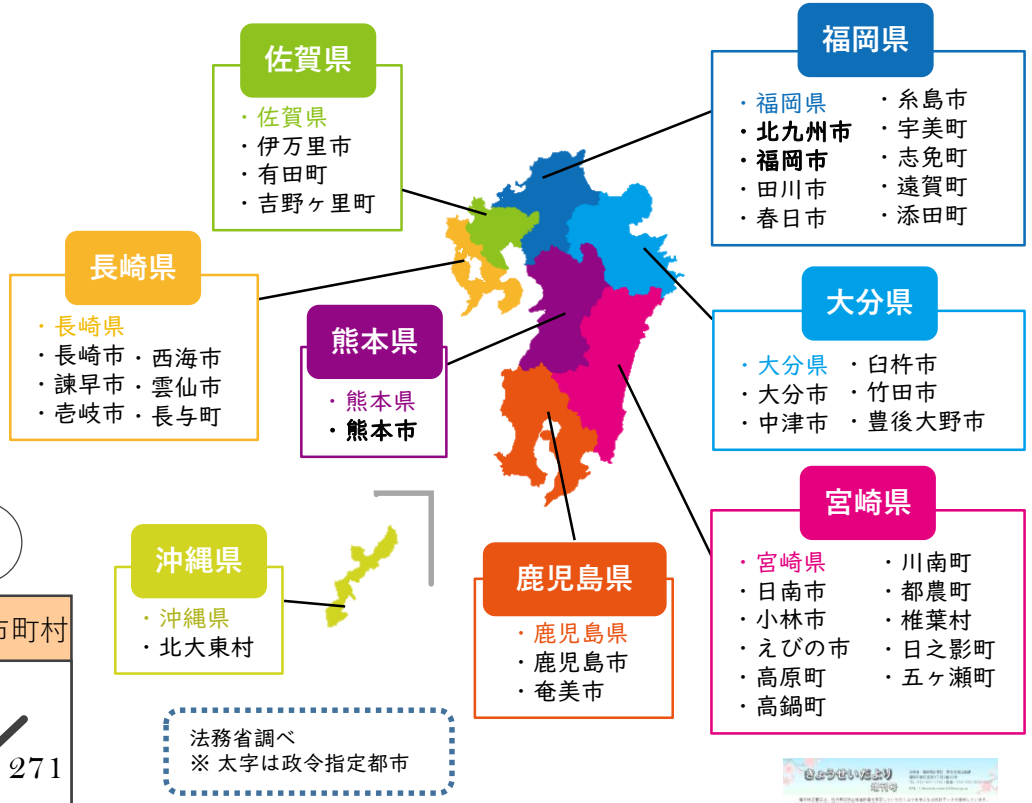
令和4年度再犯防止啓発ポスターの4コマ漫画は、昨年度に法務省が主催した「再犯防止4コマ&1ページ漫画大賞」において法務大臣賞を受賞した作品です。8月を迎え、再犯防止啓発月間は終わりましたが、今後とも再犯防止にご関心を持っていただけるよう努めてまいります。

データで見る再犯防止

～地方再犯防止推進計画策定状況 (R4.4.1時点)～

平成28年12月に施行された再犯防止推進法において、地方再犯防止推進計画の策定が地方公共団体の努力義務とされました。

九州・沖縄地方では、**令和3年4月1日時点**で地方再犯防止推進計画を策定しているのは**全8県と9の市町**でしたが、**本年4月1日時点**では策定済みの**市町村数が37**にまで増えました。



福岡矯正管区更生支援企画課では、地方再犯防止推進計画を策定していただく上で参考となる統計データを提供しています。お気軽にお問い合わせください。



詳しくは、きょうせいだより4月号の増刊号をチェック



最初の一回を避けるために

6月末、九州地方更生保護委員会と共に、特定非営利活動法人ジャパンマックに属する「ジャパンマック福岡」を訪問しました。ジャパンマック福岡は、アルコール依存やギャンブル依存、窃盗症、薬物依存、ゲーム依存、性依存など様々な依存症からの回復を支援している団体であり、ミーティングなどの回復プログラムへの参加やグループホームでの生活を通して、「最初の一回を避けるための生活習慣」を身に付けられるよう支援をしています。昨年、訪問看護を始めるなど事業内容は多岐に渡り、依存症者の回復を包括的に支援できる体制を整えています。

北九州市地区
川崎地区
東京地区

福岡市地区

特定非営利活動法人
ジャパンマック

- ・自律訓練（生活訓練）事業所
- ・就労継続支援B型事業所
- ・就労移行（就労定着）支援事業所
- ・共同生活援助事業所（グループホーム）
- ・自立生活援助
- ・カウンセリングスペース（H31.4～）
- ・依存症回復支援センター（R2.3～）
- ・訪問看護（R3.11～）
- ・地域連携室
（障害者手帳等の申請補助など）

訪問時は、まずチームミーティングを見学させていただきました。チームミーティングは「ここでの話はこのだけのもの」という約束の下でその日のチームに沿って一人ひとりが自分の事を話し、他メンバーはただ聞くという「言いつばなし、聞きつばなし」のスタイルで行われていました。年齢も性別も依存症も様々でしたが、心に抱えているものは共通するのかが、うなずきながら聞いていた方もいました。

ミーティングの次は、グループホームを見学させていただきました。ジャパンマック福岡はグループホームなどの宿泊施設を40近く運営しています。更生保護施設とも連携しており、更生保護施設の近くにもグループホームを設置し、更生保護施設の退所者の受け入れもしているとのことでした。

グループホームでは規則正しい生活を送り、朝は同居しているメンバーでミーティングを行います。昼間はジャパンマック福岡でのプログラムに参加し、夜は各自が抱える依存症の自助グループのミーティングに参加します。このような日々の繰り返しで、「最初の一回」を避けるための生活習慣を身に付けていくのだそうです。



ミーティング会場

「触法依存症者」の回復支援

依存症者回復支援センター「エール」は令和2年3月に開設され、触法依存症者の回復支援を行っています。



依存症回復支援センター「エール」発行

エールでは矯正施設入所から頭在化支援（依存症という病識のない人に行い、回復への動機づけを図っています。そして、矯正施設退所後は、認知行動療法プログラムによる回復支援を行っています。触法依存症当事者の意見を基に、SMARPP（物質依存回復支援プログラム）を窃盗症向けと性依存向けに改訂し、プログラムを実施しているとのことでした。

再犯を防ぐために、まずは依存症の治療・回復という視点を



ジャパンマック福岡 総括兼 エール支援員 岡田さん

ジャパンマック福岡やエールは、実際に多くの依存症者を支援してきましたが、依存症や住居の確保だけでは安定した生活は続かず再犯を繰り返す傾向が見られるのだそうです。再犯のない安定した生活を続けるためには、まず依存症の治療・回復を行うことが大切とのことでした。

今回、様々な依存症からの回復支援に取り組む、ジャパンマック福岡を訪問させていただきました。再犯防止という共通の目的に向けて、触法依存症者が地域にスムーズに移行していけるよう連携を深めていきたいと思えます。

特定非営利活動法人 ジャパンマック ジャパンマック福岡

2013年10月、ジャパンマック福岡開設準備会を中心とする多くの理解者の支援のもとに開設。アルコール依存やギャンブル依存、窃盗症、薬物依存、ゲーム依存、性依存など様々な依存症からの回復を支援している。現在、スタッフの6割が当事者。また、休眠預金活用事業の実行団体として選定され、依存症者回復支援センター「エール」を設置し、触法依存症者支援の拠点づくりも行っている。



質問やご意見、取り上げてほしい事項などありましたら、当課までお気軽にご連絡ください。

お問合せ先

福岡矯正管区 更生支援企画課 福岡市東区若宮5丁目3番53号
TEL:092-661-1143 (直通) FAX:092-663-1001
MAIL:1.fukuokakyousei.9jf@i.moj.go.jp



吉芸学院 人農



所在地：熊本県球磨郡錦町



あなたの街の
矯正
施設
Vol.2

POINT

建設機械 運転訓練コース



当院で開講している建設機械運転訓練コースでは、大型特殊運転免許及び車両系建設機械（整地等及び解体用）運転技能講習を取得するため、年間最大三十名の少年が約三か月の訓練を受けています。大型特殊運転免許等を取ることができる少年院は限られていますが、当院だけでなく、他の少年院から参加している少年もいます。

本コースでは、社会で活躍できる人材の育成を目指していることから、資格を取得するのはもちろんのこと、安全に作業することの大事さを身に付けるため、交通法規の重要性や就労時ルールについても学びます。

農園芸科農耕班



「土を耕し、心を耕す」の精神の下、現在アグリコースでは年間十三種類、総重量四トンの野菜を生産しています。収穫した野菜は、在院者の日々の食事にも使用され、食糧費節減の一端を担っています。

春の野菜の種まきに始まり、夏には里芋の土寄せ作業で額に汗し、秋には自分たちが丹精を込めて育てた野菜の収穫の喜びを噛みしめ、冬には、まさに「土を耕し、心を耕す」がごとき天地返し作業に精を出しています。一年を通して、根気のいる作業が続きますが、彼らは自分に負けじと取り組んでいます。出後は、この経験を活かし、社会生活において直面するであろう数々の困難を乗り越えていくことを期待しています。

地域社会への貢献 （豪雨対策の土のう作り）

令和二年七月に発生した球磨地方における豪雨災害を受けて、当院の所在地である錦町の町役場から土のう作成の依頼を受け、昨年度及び今年度、社会貢献活動として二千袋の土のうを作成しました。昨年度は処遇の最終段階である一級生のみで作成しましたが、今年度は在院者全員で作成しました。



本活動を通じて、地域社会への貢献のみならず、在院者に対して防災意識の涵養や地域社会との関係を育むことの大切さを教えることができたと思います。教育の場としても非常に有益であるため、今後も錦町役場と連携しながら活動を継続していきたいです。

VOICE

現場職員の声



地域との共生や社会貢献活動の一環として梅雨入りまでの期間中に土のう作りに取り組みました。土のうは、大きなスコップで袋の六割程度まで土を入れ、袋の上部に付いている紐を引いて口を絞って、口の周りを三回四回まわして締めるという方法で作ります。この工程を一日のうち、に幾度となく繰り返して行うため、体力と気力を使う作業ですが、在院生たちは、「自分達の頑張りや、家屋への浸水を防いだり、水をせき止めることができると、」「地域社会への貢献に励もう。」という高いモチベーションを持ち、一致団結して取り組むことができましたと思います。